

事例検討会の発表資料について(平成 29 年度)

1. 発表時に準備する資料

A: 本文(以下の項目に沿って記述して下さい)…字数, 枚数制限無し

- ①表題 ②報告の目的 ③事例紹介 ④作業療法評価 ⑤介入の基本方針 ⑥作業療法実施計画
⑦支援(介入)経過 ⑧結果 ⑨考察 ⑩参考文献

B: 生活行為向上マネジメントシート(事例報告用)…A4 1枚

C: 生活行為課題分析シート…A4 1枚

2. 資料の書き方

A: 本文

①表題

介入内容や変化が分かるようなものにしてください。

ポイントは、支援者ではなく対象者を中心にした表現にし、対象者固有の生活像、人生観、意味ある作業などが垣間見えるようなキーワードを用いて、マネジメント実践であることを示すような表現としてください。

②報告の目的

事例報告の目的を述べます。**報告内容の要旨(アウトライン)**を示してください。具体的には、どのような対象者に、どのような立場で、どのくらいの期間関わって、どのような結果に至ったのか、という点を押さえて記述すると分かりやすくなります。支援が長期にわたる事例の場合はある一定期間に限定して報告する、また、種々の課題に支援した場合は、標的問題(優先順位の高い課題)を中心に報告するようにしてください。

③事例紹介

年齢、疾患名、既往歴、現病歴、**MTDLP の対象となるまでの経緯**、社会的背景など、本事例の包括ケア方針に関連する**個人因子**と環境因子について述べてください。

特に、対象者の作業歴をここに詳しく示すようにします。具体的には、年齢・性別、要介護度等の制度上の認定情報、主疾患名・現病名・既往歴等の医療的な情報といった基本的情報に加え、家族・住まい等に関する情報(〇人暮らし・マンションOF など)、生活歴、作業歴、本人が大事にしていた作業などです。また、今回の MTDLP 介入前に利用していたサービス状況(可能であれば利用目的も記述)といった MTDLP 介入のために必要な社会的情報を概括し、MTDLP の対象となるまでの経緯を端的に記述する形が分かりやすいでしょう。

各シートとの整合性が大切です。

④作業療法評価

生活行為向マネジメントシートの**生活行為アセスメント**の内容を**要約**した記述をしてください。

生活行為の目標、検査測定などの評価内容、心身機能・構造、活動と参加、環境因子、予後予測、合意した目標(合意形成までのプロセス)・自己評価をなどについて文章で具体的に記述します。

ここが MTDLP 実践の土台であるため、合意目標設定までのプロセスを明確に記述することが必要です。合意目標とは、「本人およびキーパーソンの意向」と「報告者の生活行為アセスメント」とのすり合わせによって「個人因子が反映された達成可能と見込まれる目標」を導き出し、これを本人およびキーパーソンに提案し、合意が得られた目標のことです。

合意目標設定までのプロセスは、MTDLP 基礎研修の演習で行ったプロセスに沿って記載する形が、読み手にとって分かりやすいでしょう。

具体的には、対象者およびキーパーソンの生活行為に対する目標、生活行為アセスメント(心身機能・構造、活動と参加、環境の3つの側面における阻害因子と強みを要約した記述)、合意目標設定の根拠(なぜその目標を導き出したかという根拠について、予後予測を踏まえ端的に述べる)および合意目標に対する自己評価、の順で記述すると良いでしょう。可能であれば、自己評価時の本人コメントを加筆すると対象者のイメージが分かりやすくなります。

⑤介入の基本方針

どのような**方針**で生活行為プランを立て、進めていくかを具体的に述べてください。目標あるいは課題解決のために、作業療法評価から導き出した、介入の大筋の方針・方向性・展望などを示して下さい。

チームの総合的援助方針や疾患・事故等の**リスクマネジメント**を押さえつつ、合意目標達成のための構造(合意目標達成のために必要とされる下位目標や課題解決など)を端的に示すことが望ましく、作業療法の個別介入に留まらず、MTDLP 介入を示す記述が必要です。

⑥作業療法実施計画

マネジメントシートの**生活行為向上プラン**の部分を整理して、要点を**文章で記述**してください。基本的プログラム、応用的プログラム、社会適応プログラムに分けて、それぞれが何を目的としたプログラムであるか、プログラムのつながりや**多職種連携**の介入プランを具体的に記述してください。いつ・どこで・誰が・何を・どれくらい行うのか、というマネジメントの視点を要所に入れながら、実施計画(計画の段階の視点で)を記述します。

⑦支援(介入)経過

ここでは必要な内容は「**どのような支援(介入)経過においてどのような効果が出たのか**」を的確に記述することです。経過が長い、あるいは支援項目が多い場合は、期間をいくつかの「期」に分け、各期ごとに整理するなど、読者に伝わりやすい書き方の工夫をしてください。対象者に変化を与えたと思われる主要な支援方法は詳細に述べ、読者が実務上で再現できるような情報となるように記述してください。プログラムの変更があった場合にはその理由を述べ、予期せぬ変化等についても記述してください。対象者の質的な変化は、介入経過で記載してください。

特に、以下の視点を押さえて介入経過を記述することが重要です。

- ・作業療法実施計画に基づいた介入経過となっているか？
- ・実施したことの羅列ではなく、介入による対象者の変化をきちんと記述できているか？
- ・どの時期に、どんな介入をして、どういう変化が得られたという経過について要約できているか？
- ・時系列がしっかり整理されているか？
- ・介入過程において、プログラムの変更・追加の必要が生じた場合や、予期せぬ事象があった場合は、きちんとその理由を示しているか？
- ・MTDLP 介入によって獲得した生活行為が、その後も継続・拡大・発展できるような連携(連絡レベルに留まらない引継ぎ・申し送りなど)が図られているか？

⑧結果

介入によってもたらされた変化(結果)を記述します。目標が達成されたか、主に、**介入によって得られた評価指標(数値)や自己評価の数値の変化と本人のコメント**を記述してください。生活行為マネジメントシート・生活行為課題分析シートとの整合性にも留意してください。

特に、以下の視点を押さえて結果を記述することが重要です。

- ・課題解決や合意目標の達成が出来たか？
- ・介入時(生活行為アセスメント)と介入終了時の比較が記述されているか？
- ・生活行為アセスメントで記述されていない評価指標が、結果の項で突然出てきていないか？
- ・支援終了時における自己評価およびその実行度・満足度についてのフィードバックが記述されているか？

・介入の結果によって、対象者がどのような生活状況に至ったか記述されているか？

⑨考察

「結果」で述べた、対象者の変化に関する解釈を記述します。今回実践した MTDLP は、対象者の標的問題(生活行為に影響する課題)や生活にどのような変化(効果)をもたらしたのか、あるいはもたらさなかったのか、これらはどのような理由によるものか等を、利用した評価指標の変化との関連から考察してください。

そして、対象者にとっての意味や価値という視点、**他の生活行為への影響**、活動や参加、生活の質といった視点についても可能な限り考察してください。

介入終了時点で、対象者にとってなお残された生活課題が整理されているか、また、それらの解決策(支援案)が示されているかは重要です。これらを含め、対象者の 24 時間 365 日連続する生活の展望を記述しましょう。加えて、今回の MTDLP 介入から見えた施設内課題や**地域課題**についてもアセスメントしてください。

特に、以下の視点を押さえて考察を記述することが重要です。

- ・MTDLP 介入による対象者の変化(結果で述べた事項)について分析的にフィードバックできているか？
- ・介入終了時点で、対象者にとってなお残された生活課題が整理されているか？また、それらの解決策(支援案)が示されているか？
- ・今回の MTDLP 介入から見えた施設内課題や地域課題についてもアセスメントされているか？
- ・上記 3 点を含めて、対象者の 24 時間 365 日連続する生活の展望が記述されているか？
- ・抽象的な表現を多用して、具体的な事実がわかりにくく、まとめられていないか？
- ・文献引用の割合が多すぎて、肝心の対象者が陰に隠れてしまっていないか？

⑩参考文献

参考になる関連文献がある場合は記載してください。また、本文中で言及もしくは引用した文献との箇所について記述してください。

B:生活行為向上マネジメントシート

生活行為向上マネジメントシートは、マネジメントのながれと内容がわかるもので、作業療法士の思考過程である、評価と課題の設定、計画・実行までを網羅しています。

事例検討会には、**生活行為向上プランに『結果』の欄が追加されたマネジメントシート(事例報告用)を OT 協会ホームページよりダウンロードしてご使用ください。**

事例報告用のシートは記入欄が限られていますので、要点を絞り簡潔に表現するよう努めてください。

C:生活行為課題分析シート

生活行為課題分析シートは、対象者の望む生活行為に関連した要因にのみ目を向けるのではなく、改善の余地のある ADL や IADL も見落とさないようにするためのツールです。このシートは、MTDLP を進めていくうえでの作業療法士の考える、解決すべき課題(生活行為)の設定に至る思考過程を表すため、質の評価と教育に資する様式です。

以上です。

上記内容は OT 協会ホームページにある「**事例報告書作成の手引き(生活行為向上マネジメント)**」に準じています。具体例も記載されていますので、そちらも熟読してください。なお、日本作業療法士協会では、作業療法士が生活行為向上マネジメントを用いて、作業療法の視点を地域包括ケアに活かし、一丸となって人々の生活に寄与していくために、事例の集積を進めています。事例検討会の資料を手直して登録へつなげられるようにと考えています。事例登録に際しても、生活行為向上マネジメント指導者が支援いたしますので、事例登録への取り組みをよろしくお願い致します。